

連合愛知尾張南地域協議会他 東日本大震災被災地視察

愛知県議会議員 鈴木 純

連合愛知尾張地域協議会が中心となって企画した、東日本大震災被災地(宮城県内)視察に参加。3月末に調査した石巻市等のがれき処理の進捗の確認や一般の方(34人の視察団)の被災地・がれきの状況に対する思いが直接聞くことが出来た。本来は1泊2日の行程だが、尾張水防・防災訓練(稲沢市で開催)のため6月1日のみの日帰り調査となる。概要等は以下の通り。

<仙台市若林区(荒浜地区)>

仙台空港から名取市を通り若林区へ行く間の田んぼも、浸水し水が引かない状況、取り壊さなければならない家屋もまだ残っている。荒浜小学校の校庭には有価物といわれる車がおかれたままだ。最初にバスの中で議員を代表して挨拶させて頂いたが、既に参加者の目は真剣で、3月に訪れた時のがれき処理の話真剣に聞いて頂く。仙台市唯一の海水浴場もまだ未整備の状況、黄色い布に詰められたこの地で暮らしたいと云うメッセージに応えは出せない。



<東松島市(野蒜駅)>

三陸自動車道を降り、観光客が戻りつつある瑞巖寺の前を通り野蒜駅に向かう。鉄道が分断されバスの代行が行われている区間は震災直後真っ暗な闇の中ドライバーの中では幽霊の噂が絶えなかったそうだ。野蒜駅の周辺では避難所に指定されていた海岸に近い小学校に避難した方のほとんどは津波に飲まれ、付近の川には今でも遺体が沈んでいると云われていた。野蒜駅を含む仙石線の陸前大塚駅から陸前小野駅間は約500m内陸に移して復旧することが決定、2015年開業予定。



<石巻市(門脇小学校・日和山公園)>

製紙工場の横を通り海岸方面へ進むが、今まではコンテナが壁のように積み上げられていて工場内は見えなかったとのこと、稼働し始めた焼却炉を遠方に見る。地震と津波と火事に襲われた門脇小学校では子どもたちが被害を逃れたことに皆さん安どするも、道路脇に未だ分別されずに山積みになったがれきに表情が曇る。日和山公園からの景色は未だ復興の息吹は感じられなかった。ただ、4段積みのがれきの山の処理に手がつけられたようで安心する。皆さんにも早期のがれき処理の必要性を認識いただけたと思う。

